

大津町献穀事業

77年ぶりの献穀事業

毎年、11月23日に行われる「新嘗祭」で皇室へ奉獻される米と粟を作る「献穀事業」が平成27年度は引水地区で行われました。

平成27年度の開催で123回目を数える歴史的、文化的な行事で、宮中行事の中でも重要な行事のひとつです。都道府県ごとに新穀が奉獻されます。町の献穀事業は昭和13年に護川村で行われて以来、77年ぶりの開催です。

貴重な体験

熊本県の今年度の献穀者は引水の谷本保馬さん、鈴子さん夫妻でした。丹精こめて作った精米一升と精粟5合を奉獻し、それぞれ新嘗祭に供えられました。栽培にあたった谷本さん夫妻は、「献穀は責任が大きく不安も

あったが無事に終える事ができてよかった」と胸をなでおろしていました。

御田植祭、抜穂祭には大津中学校の生徒が白装束の田男、早乙女姿に身を包み、貴重な体験をしました。

新嘗祭とは

収穫祭であり、天皇陛下が五穀の新穀を神々に供えられ、自らも食され、その年の収穫に感謝をする宮中行事。ほかにも、民族芸能・文化財の保護育成や農業の大切さを伝える文化的な役割を持つ重要な行事です。



新穀ができるまで（開催日）

大津町献穀事業の概要

- 事業者
大津町献穀事業推進協議会
(会長：大津町長 家入勲)
- 献穀田
大津町大字引水
- 献穀(品種)・量
精米(くまさんの力)
・1升(1.8リットル)
精粟(西原在来)
・5合(0.9リットル)
- 献穀先
皇居(宮内庁)
- 祭事など(期日)
清祓祭・播種祭(5月19日)
御田植祭(6月20日)
抜穂祭(10月10日)
奉告祭(10月15日)
献穀献納式(10月29日)
新嘗祭(11月23日)
県知事報告(11月26日)



清祓祭・播種祭

神事で献穀田を清め、苗床に種をまく。
約40人が出席し、献穀田を清める「斎田清祓の儀」、鍬を入れる「鍬入れの儀」、種をまく「播種の儀」の3つの神事が行われました。



6月20日

御田植祭

苗を献穀田に植える神事。大津中学校生徒が田男、が早乙女姿にふんして、はき慣れない草鞋に苦戦しながら苗を植えていました。



5月19日

